



「Sulang」はパラオ語で「ありがとう」という意味です。（私が置かせていただいている環境に感謝を込めて）

○任地紹介～授業編～

私の任地ベラウ・モデクゲイ・スクールの1日の授業は1～6限までがアカデミックと呼ばれる国語、英語、数学、社会、理科といった授業、7限が農業、漁業、編物、メカニックといった実業系の授業、8限が体育という流れになっています。

1日の時程

7:45～ 8:00 朝の集会

8:00～ 8:45 1限

8:45～ 9:30 2限

9:35～10:20 3限

10:20～11:05 4限

11:05～11:50 5限

11:50～12:45 昼食

12:45～13:30 6限

13:45～15:30 7限（実業系）

15:30～16:30 8限（体育）



驚いたのは授業の間に休み時間がなかったりすること。良くも悪くも授業の始まりと終わりは緩やかです。あと、毎日の授業の科目の時間割が固定されていることにも驚きました。

アカデミックの授業の様子は、教科書と黒板を使うスタイルが多く、先生が説明する時間が多い印象です。実業系の授業では漁業で撮った魚を見せてもらって、生徒が処理するところを見せてもらいました。生徒は魚をさばいたり、ココナッツの実を切ったりとナイフさばきはお手のもので、私も魚のさばき方を生徒から教えてもらって、魚をさばくことができるようになりました。農業の時間では草刈り機を使って農地の草刈りをしたりしています。年中温かい（暑い）パラオでは草の成長スピードが速く、日々、至る所で草刈りが行われています。メカニックの授業で草刈り機や船のエンジンの手入れの方法を身に付けます。体育館は驚いたことに壁がありません。暑いとはいえ、日本の夏ほど暑くは感じないので、日陰で風通しの良い体育館は意外に過ごしやすく、日本の体育館のように熱中症の心配はないかもしれませんね。ただ、バレーボールなどでボールが体育館の外に飛んでいくと、取りに行くのが大変です、

任地ベラウ・モデクゲイ・スクールは生徒の自立に重きを置いている印象です。生徒は寮生活で食事や洗濯といった身の回りのことを自分でできるように、実業系の授業で大人になってから必要とされるスキルを身に付けます。高校3年生にもなると率先して身の回りの仕事に取り組み、後輩の面倒見も良く、礼儀正しく、生活に関することを何でもこなせる彼らからは自立した立派な大人という風格が漂っています。車の運転免許を取って運転する生徒もいます。